

保磁力（抗磁力）、J(H) 磁気履歴曲線&透磁率、飽和磁束密度測定器

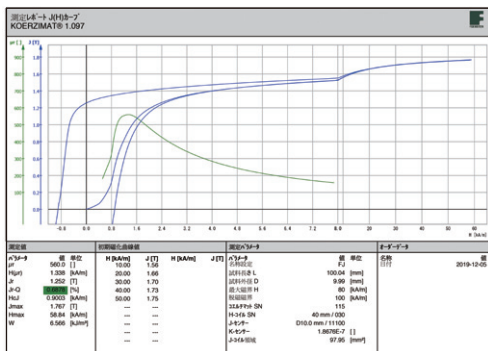
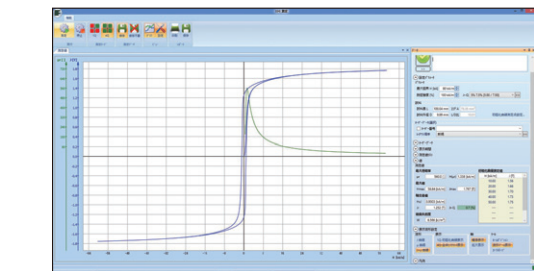
KOERZIMAT® 1.097 HCJ Measuring coercivity since 1950



磁気履歴曲線が丸棒で簡単に測定出来て、新IEC 60404-7規格に完全に準拠した
部品の保磁力測定も出来る世界で唯一の測定器です。



J(H) Extension Module



JH Extension Moduleで磁気履歴曲線測定が低コストに

- これまで円環体（ドーナツ型）の検体を用いた測定が標準でしたが、KOERZIMAT®にJH Extension Moduleを使用して丸棒の検体で磁気履歴曲線の測定が可能になりました。従来型の高価な測定装置の数分の一のコストで済みます。
- 丸棒の閉磁路中の測定では、隙間を完全に無くするために非常に精密な機械加工の上でヨークに押し付け密着させる必要があります。内部応力が発生して誤った測定につながる可能性があり、結果がオペレーターの熟練度に依存します。準備に時間もかかり一般的な工業製品には適していません。
- 検体の面倒な下準備が不要で素早く簡単に測定が出来るため、研究所や大学、委託検査会社や工業試験場でも製造ラインでの品質管理でも高スループットを発揮します。保磁力測定時間僅か3秒、材料磁化時間も自由に調整可能です。
- 高出力が実現した広範囲の均一磁場空間により組み上げ部品全体の保磁力の測定も可能にしています。

37年ぶりに改定されたIEC 60404-7規格「開磁路中の磁気材料の飽和保磁力（160kA/m以下）の測定方法」に関して

- VSM（振動試料型磁力計）は、検体寸法 5mm ≥の立方体までかつ測定範囲はHcJ ≥ 1k/mなどの制約が、改定された規格にそぐわないとして除外されました。
- 回転楕円体より複雑な形状の検体や複数の組み上げ部品の測定方式としてはKOERZIMAT®が採用している方式であるMethod Bが規定され、フラックスゲートセンサーが必須となりホールセンサーは認められなくなり成りました。
- KOERZIMAT®のように外乱磁場（例：地磁気）を補正する磁気シールドを持たない装置は規格に適合しなくなりました。
- 小さくて微弱な軟磁性（特殊合金や超硬合金、等々）検体の測定には規格の中でMethod A b)としてKOERZIMAT®の採用するInternal Probe方式で行うよう規定されています。

●基本仕様：

保磁力測定範囲（オートレンジ）0～100kA/m／保磁力測定時間（固定3秒）／磁化時間（1～40秒、調整可能）／HCJ測定誤差（測定値の±1%未満）／コイル内径・内包（41mm,62mm）／大磁化磁界強度 450kA/mを実現／6～16mmの丸棒の検体に対応／透磁率測定範囲 μr 100～2500

日本フェルスター株式会社

お問い合わせ：<http://www.foerster.co.jp/inquiry.html> e-mail: marketing@foerster.co.jp

本社 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-29-1 コイズミビル6F TEL 03-6862-7451
大阪支社 〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島5-6-2 TEL 06-6476-5123
名古屋営業所 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-18-24 7F TEL 052-203-0631



フェルスターの装置製造工場はISO9001およびISO14001の認定を受けております。